

あたたかい「まなざし」で子どもを守ろう！

県下最大の青年部員数を持つ高島市商工会が、県内で初となる「子ども見守り隊」の出発式を行いました。



商工会青年部全国組織化40周年の記念すべき年に当たり、社会貢献活動として営業車165台に「子ども見守り隊」のマグネットシールを装着して、防犯活動を行います。

子どもを対象とした犯罪が増える中、市内で多くの大人が見守り活動を行うことにより、犯罪を抑止し、子どもたちが安心して暮らせる街を目指します。(青少年課)



落書き消しは犯罪予防の第一歩

子どもたちの見守り活動や地域の落書き消しに活躍されているレイクウエストパトロールが、4月14日(土)に湖西中学校陸上部員と一緒に新旭駅周辺の高架下の落書き消し作業を行いました。

パトロールの方にコツを教えてもらった中学生が、キビキビと作業し、あっという間に落書きが消えていきました。

私たちの住むこの地域がいつまでもきれいで、犯罪のない明るい街であるよう皆さんのご協力をお願いします。

(総合防災課・青少年課)

「2007地雷をなくそう！ 世界子どもキャンペーン」スタート

『地雷廃絶』への願いを込めて、市内の小中学生33人のメンバーが今年活動をスタートしました。「地雷をなくそう！ 世界子どもキャンペーン」に名称をあらため、その第1回目のミーティングを4月21日(土)に行い、今年度の組織の決定とどんな取り組みを行うかを熱心に話し合いました。

この地で開催された世界子どもサミットの後も、平和への思いはさらに強まり、活動がつながっています。頑張っている高島の子どもたちを応援してください。

現在、活動を支援して下さる大人のスタッフを、お待ちしております。青少年課まで連絡ください。(青少年課)



写真館 まちな



あんなできごと、こんな人。まちで起こったホットなニュースを紹介します。ニュースは皆さんから大募集!!
あなたのとびきりな紹介をください。



いざ鹿児島県志布志市へ！ ～少年剣道交流～

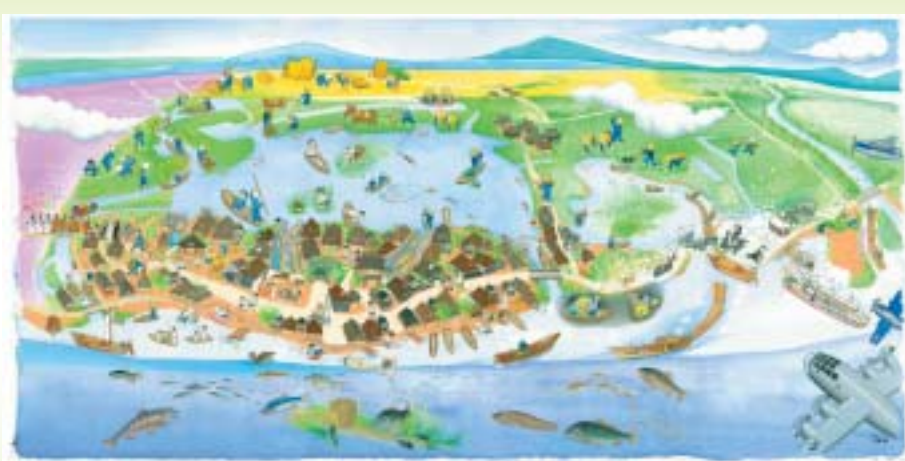
4月29日に鹿児島県志布志市で開催された、「お釈迦祭り奉納剣道大会」に高島市内の少年剣道の子どもたち24人が出場し、団体戦(低学年の部)では見事3位に入賞しました。

志布志市とは、環境自治体サミット参加自治体の縁で、今回、大阪南港と志布志港とを結ぶフェリー「さんふらわあ」の航路存続のための利用促進事業として高島市内の子どもたちを招待いただいたものです。

大会前日の28日には、志布志市内のお茶工場の見学や、近隣の少年剣道クラブとの練習試合で交流を深めました。

今年は鹿児島県内外から136チームが参加し、盛大に開催されました。

(市民スポーツ課)



画・早藤典子氏 語り・今在家老人会 高島市所蔵

小学校などで昔の生活の様子などを絵図を使って語り継いでおられ、子どもたちからも興味を持ってたくさん質問が返ってくるようです。人と人を、世代を超えてつなぐ取り組みとしてこれからも広がっていくことが期待されます。

(注) 地域に暮らす人々が、日々の生活体験の積み重ねを通じて育んでこられたふるさとの思い出やイメージを集約し、絵画によって表現したもの。当時の風俗や街並みを正確に復元することを目的としたものではなく、人の印象に合わせて変形・誇張されている部分があります。

絵図の制作にかかわった老人会の皆さんは、

このコーナーでは、市内の各地で取り組まれている「ふるさと絵屏風(注)」による地域の再発見を、「絵屏風のふるさと巡り」と題して紹介していきます。今回は今在家(安曇川町)の絵屏風です。今在家の絵図は、平成14年度から安曇川町の事業として滋賀県立大学の協力を得て制作に取り組みされたものです。

地元の人たちが「ウミニ」と呼ぶ琵琶湖と「カヤ」と呼ばれていた松ノ木内湖に囲まれた今在家は、集落に土地が少なく(地元では「郷がない」集落と言われていた)、田舟を使い遠く川上の田畑まで耕作に出かけられたといわれています。また、琵琶湖や内湖の水がおいしく魚介類も豊富で、足を洗っていると魚が足をつくほどだったこと、タフライの舟でおやつ(菱(水草の実))を取って食べたことなどが描かれています。干拓によって農地になってしまいましたが、梅ノ木内湖(絵図右側の内湖)があったところは貯木場があって、朽木などで切り出された木がポンポン船で大津方面に運び出される様子も描かれており、琵琶湖との関わりが深い地域であったことがうかがえます。その他にもここで暮らしてこられた人たちの多くの思い出などが絵図に詰め込まれています。

シリーズ さと
わ 環の郷 その十七
ふるさと今在家
絵屏風

絵屏風のふるさと巡り①